

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和4年3月定例会	
議案番号 議案名	議案第60号 令和4年度松戸市一般会計予算
議員名・会派名等	立憲民主党
賛否態度	賛成
賛否など態度決定に至った理由や討論	<p>みなさま、こんにちは。会派：立憲民主党の戸張ともこです。ただいま議題となっております、議案第60号令和4年度松戸市一般会計予算に対し、会派：立憲民主党を代表し、賛成の立場で討論いたします。なお、議案第67号新松戸駅東側地区 土地区画整理事業 特別会計については反対、議案第69号から議案第71号の各事業会計予算に対しては、賛成したことを申し添えます。議案第67号については、政策実現フォーラムの増田かおる議員が、会派『立憲民主党』『政策実現フォーラム』の両会派を代表して反対討論いたします。</p> <p>令和4年度予算は、コロナ禍でありながら税収が増える見込みとなり、過去最大の予算計上となりました。主な事業の内訳としては、新型コロナウイルス対策に約32億円、子育て支援に約58億円、都市基盤の再整備に約43億円、となっています。</p> <p>税収では、個人税は前年比1.9%増の331億600万円、法人税は前年比35%増の29億4,700万円、固定資産税は前年比8.6%増の246億4,500万円、また、地方消費税交付金は10%増の110億円などとなっています。予算資料の中の所得の推移を見ると令和3年度は下がっているのに、どうして税収が上がるのかを歳入の審査で尋ねたところ、答弁では「納税者が増える」とのことでした。令和3年度の所得が減っているのに税収が増えることに違和感を覚えますが、コロナの拡大が少し収まることを見込んでいる数字であろうと理解しました。予測通りになることを期待します。</p> <p>予算審査特別委員会においては、かねてより我が会派が課題として捉えてきた大型事業予算を中心に、市民の声により、提案・要望してきたことを含めて、市民の声に寄り添い、市民目線で市民のために策定された事業となっているのかに注視し、審査に当たりました。</p> <p>総務費では、多世代まるごと居場所づくり業務について令和4年</p>

度の展望を尋ねました。コロナ禍で予定していた6地区の実行委員会は3地区になったことがわかりました。無縁社会と言われる昨今ですが、地域において顔の見える居場所づくりは重要です。後押しと周知をしつつ、さらに市民の主体性を引き出してほしいと思います。

民生費では、グリーンスローモビリティの展望や運転手ボランティアへのインセンティブの検討などについて伺いました。答弁では、移動手段にとどまらず、地域の互助やコミュニケーションなど社会参加や地域の活性化に貢献できること、ドライバーに対するポイント制度を活用できないか等の検討をしていくとのことでした。私も小金原地区での実証実験に参加させていただきましたが、速度がゆっくりで、歩行者と会話もできますし、街路樹などを眺めながら季節の風を感じられ、高齢者にとって刺激となり、引きこもりがちの高齢者が外出するきっかけになれば良いと思います。地域のコミュニティの盛り上がりにつながるのではないのでしょうか。課題はまだありますが、より良い方法を模索していただけたらと思います。

障害者相談等業務の事業内容と実績について伺いました。障害福祉のしおりに掲載されています、市から委嘱された、障がいをお持ちのご本人やご家族が相談員となり、電話やメール等で、障がいのある方やその保護者からの相談に応じています。意味のある事業だと思えますが、その一方で、行政の役割について考えさせられました。市民にしかできないこと、行政にしかできないことを認識してほしいと思います。

競輪事業収入4億円は競輪の社会貢献の認知度向上の取り組みが特別競輪の選考基準に加わったため、市の単独事業である「松戸手当」に充てることにしたそうです。しかし、社会貢献であれば、保育以外にも、放課後児童クラブもありますし、介護福祉や高齢者福祉などたくさんあります。本市が子育て事業に力を入れすぎてはいないか、疑問に感じた場面でした。松戸市に住む全ての人に行政は関わるのですから、税金を公平に使っていただきたいと思います。

衛生費では、子宮頸がんワクチンと新型コロナワクチンについて質問がありましたが、情報の届け方については、メリットばかりではなくデメリットも伝えるべきだと思いました。副反応について心配する市民有志から要望書も来ていたので、慎重に、丁寧に対応していただきたいと思います。

消防費の消防団活動事業では、消防団の出勤確認のICT化について尋ねました。御答弁では「先行してデジタル化を導入している自治体から情報を収集しつつメリットデメリットを精査しな

がら検討していきたい」とのことでした。ICT化により、時間の削減、事務負担軽減、非接触など様々なメリットがあるので、ぜひ進めていただけたらと思います。

他にも「労働安全衛生事業」「子ども医療助成事業」「ひとり親家庭学習支援業務」「いじめ調査委員会」などなどについても質問しましたが、時間の都合上、かつあいします。

さて、会派：立憲民主党と政策実現フォーラムの両会派は、令和4年度一般会計予算に対し修正案を提出いたしました。内容は、一般会計予算の歳出から新庁舎管理事業5千4百9万1千円、総合計画検討事業105万1千円、土地区画整理事業1千38万7千円、及び松戸都市計画事業新松戸駅東側地区土地区画整理事業特別会計繰出金9千4百37万5千円、合計で1億5千9百90万4千円を削除し、歳入合計を原案1742億9千万円から1741億3009万6千円とするものです。以下、修正案提出の理由と経緯を申し述べます。

前提として、私たち両会派は、市の財政運営への疑問や今後の見通しへの不安がある中で、大型事業の優先順位や進め方については再三指摘をしてきたところです。今回もそう言った私たちの考え方に基づき、4つの事業について認めがたいとの思いから提案したものです。

まず、土木費の土地区画整理事業については、快速列車停車に関する調査等に、これまでに合計約1億円を投じていますが、その調査結果などは全く公表されていません。加えて代表質問において、概算工事費が232億円という事が示されましたが、松戸市の財政状況上、支出が可能かどうかあきらかにしないまま、さらに新たな調査費を認める事は、市民の理解が得られるとは到底思えません。

総務費についても、新庁舎管理事業については12月議会の際から一貫して、命の危険を回避する事が、新庁舎の建て替えにおいて1番重視すべきことだと私たち会派では訴えてきたので、これ以上いたずらに判断を先延ばしにする様な進め方には反対です。また総合計画に関しては、課題や目標に掲げている文言と設定されている目標値との差が大きい政策が散見されるため私たちとしては基本計画および総合戦略の役割をもたせる事で市の方向性がわかりにくくなっていると思っています。

とくに、財政面の見通しには不安を感じています。本来なら中期・長期の財政計画を作成し、議会にも市民にも理解してもらおう進め方をすべきです。新拠点ゾーン整備事業の関係費が計上されていますが、歳入には現市役所の土地の売却益約35億円も含

まれていたり、先程指摘した快速列車停車の概算工事費などは考慮されていなかったり、このような計画を認める事は難しいと判断しました。

以上の状況から、当然、歳出はこれまで以上に慎重にならざるを得ませんし、特に事業費の大きい大型事業については、本市の将来を見据え、決して楽観視せず、より慎重に優先順位等を考え判断していくべきだとの思いから修正削除を提案しました。

しかし、委員会においては賛同を得ることが出来ず、修正案は否決されました。そのあと原案に反対するのか非常に悩みましたが、会派：立憲民主党としては、修正案を提案した一部予算は認め難いものの、新型コロナウイルス感染症対策予算他、市民生活に必要な予算が盛り込まれているため、苦渋の決断として、今回は賛成することと致しました。

以上、会派：立憲民主党を代表しての討論とします。